

令和2年度 東京都内湾水生生物調査 2月鳥類調査 速報

●実施状況

令和3年2月12日に鳥類調査を実施した。天候は曇りで、気温8.4～12.0℃、北寄りの風、風速2.0～3.5m/secであった。調査当日は大潮で、干潮が11時35分(78cm)、満潮は17時02分(186cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
作業時刻	9:30-10:50	11:12-12:15	13:00-14:34
天候	曇り	曇り	曇り
気温(℃)	8.4	10.7	12.0
風向	北	北東	北東
風速(m/sec)	2.5	2.0	3.5
備考	海浜公園側に人の立入りが殆どない。	干潟の干出は少なかった。	干潟が広く干出。東側の干潟には鳥が殆どいなかった。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
数が多かった 鳥類上位2種	カワウ(983羽) スズガモ(564羽)	コガモ(142羽) ユリカモメ(31羽)	カンムリカイツブリ(6312羽) スズガモ(1926羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として4種を確認。(ウミアイサ、オオバン、イソシギ、ノスリ)。 ・第六台場ではカワウが繁殖活動のため集まり、主に樹上で営巢していた。 ・アオサギの繁殖は確認できなかった。 ・スズガモなどカモ類とカイツブリ類は、主にお台場海浜公園の海面に浮いていた。 ・護岸でイソシギ、ハクセキレイが採餌。 ・第六台場の樹上でノスリ2羽が休息。鳥の島の樹上でも1羽を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として5種を確認。(オオバン、シロチドリ、イソシギ、ミサゴ、トビ)。 ・シロチドリ18羽が干潟で採餌。 ・コガモ、ユリカモメ、セグロカモメが干潟で休息。 ・カルガモ、オナガガモ、コガモが護岸で休息。ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロが海上で採餌、休息、遊泳。 ・護岸でイソシギ、タヒバリ、ハクセキレイが採餌。 ・ミサゴは2羽出現。このうち1羽がスズキを捕食した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として8種を確認。(ホオジロガモ、アカエリカイツブリ、コサギ、クロツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、ハマシギ、ミサゴ)。 ・クロツラヘラサギ2羽が杭上で休息。 ・シロチドリ、ハマシギ、コサギが干潟で採餌。 ・沖合でスズガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、アカエリカイツブリ、ハジロカイツブリが遊泳。 ・ヒクイナがヨシ原の際で採餌。

<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場と鳥の島でカワウが多数営巣していた。



○出現種(カワウ、ウミウ、アオサギ)

カワウの営巣数は、第六台場で 528 巣、鳥の島で 69 巣であった。巣内には大きく育った雛の姿が見られ、雛の鳴き声も聞かれた。ウミウは第六台場で 2 羽、鳥の島で 1 羽の幼鳥が観察された。アオサギは 14 羽で、嘴や脚が赤みを帯びた婚姻色の個体が見られたが、繁殖に関する行動は観察されなかった。



カワウ成鳥とヒナ



ウミウ



婚姻色のアオサギ

○出現種(ノスリ)

第六台場で 2 羽が見られ、鳥の島の樹上でも 1 羽が観察された。本種は東京都レッドリスト(2013)で絶滅危惧 I B 類(EN)に指定されている。



第六台場のノスリ 2 羽

○出現種(カモ類、カイツブリ類、オオバン、ユリカモメ)

お台場海浜公園の海上にスズガモやウミアイサなどのカモ類とカイツブリ類、オオバンの群れが集まり遊泳していた。オオバンは東京都レッドリスト(2013)で絶滅危惧 II 類(VU)に指定されている。ユリカモメは非常に少なく 2 羽のみであった。



ウミアイサ

カンムリカイツブリ

スズガモの群れとウミアイサ、カンムリカイツブリ

<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻だが、干潟は狭かった。



○出現種(シロチドリ)

干潟で採餌する 18 羽が確認された。森ヶ崎の鼻で 10 羽を超えたのは平成 24 年の 26 羽以来である。本種は環境省レッドリスト(2020)と東京都レッドリスト(2013)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



シロチドリのメス(左)とオス(右)

○出現種(ミサゴ)

ダイビングしてスズキを捕らえ、杭上にとまって食べる 1 羽と、上空を飛ぶ別の 1 羽が見られた。本種は環境省レッドリスト(2020)で準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリスト(2013)で絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



○干潟利用状況

シロチドリ、セグロカモメが採餌、アオサギ、ユリカモメ、コガモが休息していた。

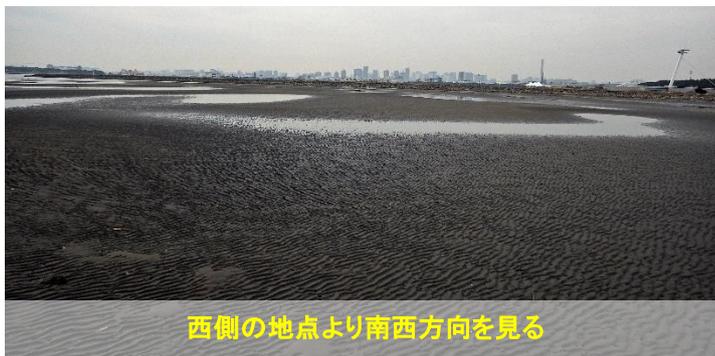


飛び立つユリカモメとコガモ(手前)

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は広く干出。調査終了頃に干潟は狭まっていた。



ヒクイナ

○出現種(ヒクイナ、クロツラヘラサギ)

ヒクイナは夏鳥として渡来し西日本で越冬するが、関東地方でも冬期に記録がある。本種は環境省レッドリスト(2020)で準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリスト(2013)で絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。ヨシ原で採餌する 1 羽が見られた。クロツラヘラサギは杭の上で休息する 2 羽が観察された。本種は種の



クロツラヘラサギ

保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリスト(2020)で絶滅危惧 I B 類(EN)、東京都レッドリスト(2013)で絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。

○干潟利用状況

干潟で採餌するシロチドリとハマシギの群れが確認された。ハマシギは環境省レッドリスト(2020)と東京都レッドリスト(2013)で準絶滅危惧(NT)に指定されている。干潟を利用した鳥類は種数・個体数ともに少なく、他にコサギ、アオサギ、ミサゴ、タヒバリのみであった。



飛翔するハマシギの群れ



干潟で水浴びするミサゴ



タヒバリ

○海面の状況

東なぎさの沖合にカンムリカイツブリとアカエリカイツブリ、ハジロカイツブリ、スズガモの群れが浮いていた。アカエリカイツブリは東京都レッドリスト(2013)で準絶滅危惧(NT)に指定され、平成 14 年度に次ぎ 2 回目の記録となる。カンムリカイツブリ 6,312 羽とアカエリカイツブリ 19 羽はいずれも過去最大の個体数である。



カンムリカイツブリとスズガモ

<その他>

○ウミネコの繁殖

構造物上にとまるウミネコ成鳥 4羽が確認されたが、営巣の兆候は見られなかった。



<トピックス>

-カワウの地上営巣-

カワウの巣は樹上や人工構造物上に造られるが、人の近づかない安全な場所では地上にも営巣することが知られている。第六台場ではこれまで樹上に営巣していたが、2月の調査で地上付近での営巣が確認された。草地の上に巣材を積み重ねて造ったと思われ、巣の高さは地上1m以内と推定される。地上営巣は第六台場南東側で5~6巣確認された。

